

自立支援型地域ケア会議 リハ職としてお伝えしたいこと

北海道医療大学リハビリテーション科学部
作業療法学科
北海道リハビリテーション専門職協会

浅野 葉子

北海道リハビリテーション専門職協会 (HARP)

- 2016年3月設立
- 目的:北海道理学療法士会、北海道作業療法士会、北海道言語聴覚士会の3団体が情報交換、連絡及び協議することで北海道内のリハビリテーション活動の円滑な推進と発展を図り、道民の健康と福祉に寄与する

北海道リハビリテーション専門職協会 (HARP)活動内容

【研修会】

- 地域リハビリテーション連携強化研修会
- 地域ケア会議アドバイザーOJT研修会
- 介護予防アドバイザー研修会
- 地域づくりによる介護予防推進事業成果報告研修会

【派遣依頼】

- 地域ケア会議アドバイザー
- 介護予防事業（自主グループ立ち上げ支援・継続支援）、など

リハ職ができる助言 (特色や会議への参加の意義)

- 対象者の状態を国際生活機能分類(ICF)で整理できる
- ICFをふまえ、多くの職種が理解しやすい言葉で説明できる
- 病気や障がいと活動・参加の関連について説明ができる(例:変形性関節症と基本的動作、糖尿病と運動・日常生活、後期高齢者と活動量や生活習慣、など)

リハ職が求められる視点(助言の視点)

地域ケア会議における多職種協働による多角的アセスメント視点(具体的な助言の例)

多職種協働による多角的アセスメントにおける具体的な助言の例

【医師】

疾患に着目した生活への留意事項の助言等

【歯科医師・歯科衛生士】

摂食・嚥下機能等の助言や義歯・口腔内衛生状況の助言

【薬剤師】

健康状態と薬剤の見極めと適切使用のための助言等

【理学療法士】

筋力、持久力等の心身機能や基本的動作能力の見極めや支援・訓練方法の助言等

【作業療法士】

入浴行為のADLや調理等のIADLを活動や環境等の能力を見極めや支援・訓練方法の助言等

【看護師・保健師】

健康状態や食事・排泄等の療養上の世話の見極め、家族への指導等の助言

【管理栄養士】

健康や栄養状態の見極めと支援方法の助言等

【社会福祉士】

地域社会資源関係や制度利用上の課題の見極めと助言等

【言語聴覚士】

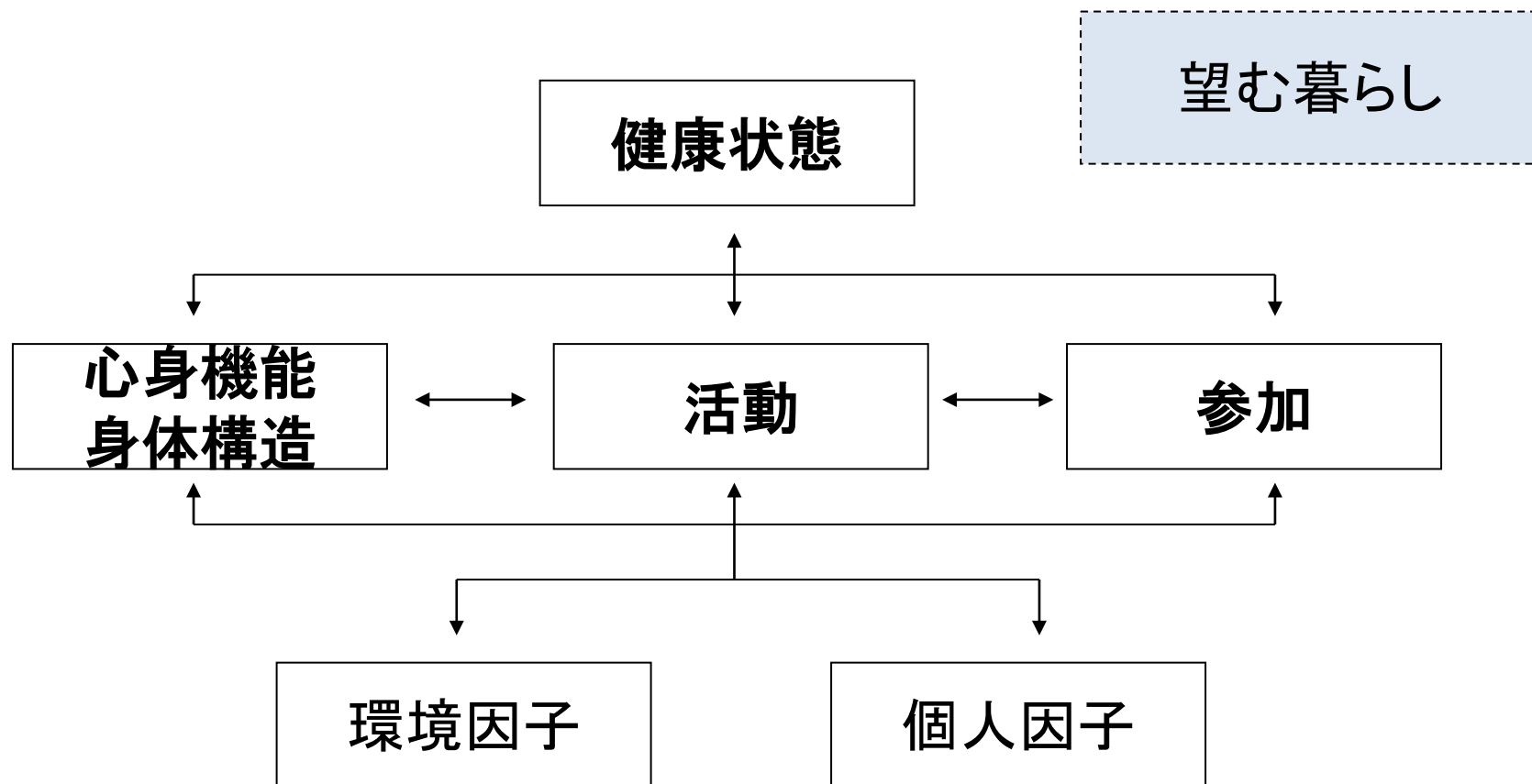
言語や嚥下摂食機能等の心身機能やコミュニケーションの能力の見極めや支援・訓練方法の助言等

多職種協働による多角的アセスメントを通じて、生活不活発病の原因が口腔機能の低下であったことが判明。



生活支援整備体制事業と地域ケア会議に求められている機能と役割について

国際生活機能分類 (ICF) をふまえて



利用者に関わる多様で複雑な情報を整理するのに便利！

興味・関心チェックリスト

生活行為	している	してみたい	興味がある	生活行為	している	してみたい	興味がある
自分でトイレへ行く				生涯学習・歴史			
一人でお風呂に入る				読書			
自分で服を着る				俳句			
自分で食べる				書道・習字			
歯磨きをする				絵を描く・絵手紙			
身だしなみを整える				パソコン・ワープロ			
好きなときに眠る				写真			
掃除・整理整頓				映画・観劇・演奏会			
料理を作る				お茶・お花			
買い物				歌を歌う・カラオケ			
家や庭の手入れ・世話				音楽を聴く・楽器演奏			

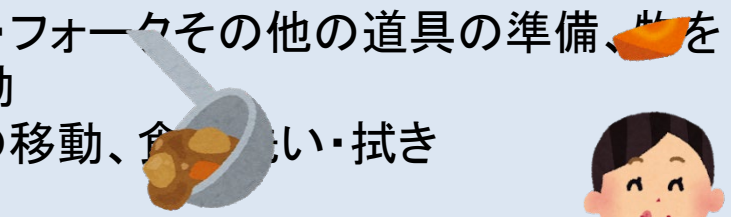
炊事の工程(カレーライス)

工程	動作	行為
1	準備	身支度・手洗い、冷蔵庫から食材を取り出す、棚や引き出しから調理道具を出す
2	食材を洗う	米を研ぐ、炊飯器の操作(タイマーセットを含む)、食材・野菜を洗う
3	食材を切る	包丁・皮むき器の使用
4	炊飯、加熱処理	フライパン・鍋・グリルの使用、火・ガスの調節
5	調味(味つけ)	調味料の使用、容器の開閉
6	盛りつけ	見栄え・色・好み・趣味・食習慣・食器の考慮
7	配膳、運搬	箸・スプーン・フォークその他の道具の準備、物を持っての移動
8	後片づけ	物を持っての移動、食器洗い・拭き

炊事の工程（カレーライス）



工程	動作	行為
1	準備	身支度・手洗い、冷蔵庫から食材を取り出す 引き出しから調理道具を出す
2	食材を洗う	米を研ぐ、炊飯器の操作（タイマーセットを含む）、食 材・野菜を洗う
3	食材を切る	包丁・皮むき器の使用
4	炊飯、加熱処理	フライパン・鍋・グリルの使用、火・ガスの
5	調味（味つけ）	調味料の使用、容器の開閉
6	盛りつけ	見栄え・色・好み・趣味・食習慣・食器の考
7	配膳、運搬	箸・スプーン・フォークその他の道具の準備、物 を持っての移動
8	後片づけ	物を持っての移動、食器の洗い・拭き



他職種に伝えたいこと (他職種との連携・協働の必要性)

- 対象者の「なりたい自分」が何かをそれぞれの立場から考える
- 「なりたい自分」の積み重ねが健康寿命の延伸につながる

自立支援型地域ケア会議とは

- 対象者の「したいこと」「やりたいこと」を明らかにすること
- 対象者の「したいこと」「やりたいこと」について、できることやできないことを明らかに（事例提供とディスカッション）し、具体的な対策を考える場（専門職からの提案と実現可能性を検証）

→ ケアプランをチェックする場でもサービスを削減するものではない

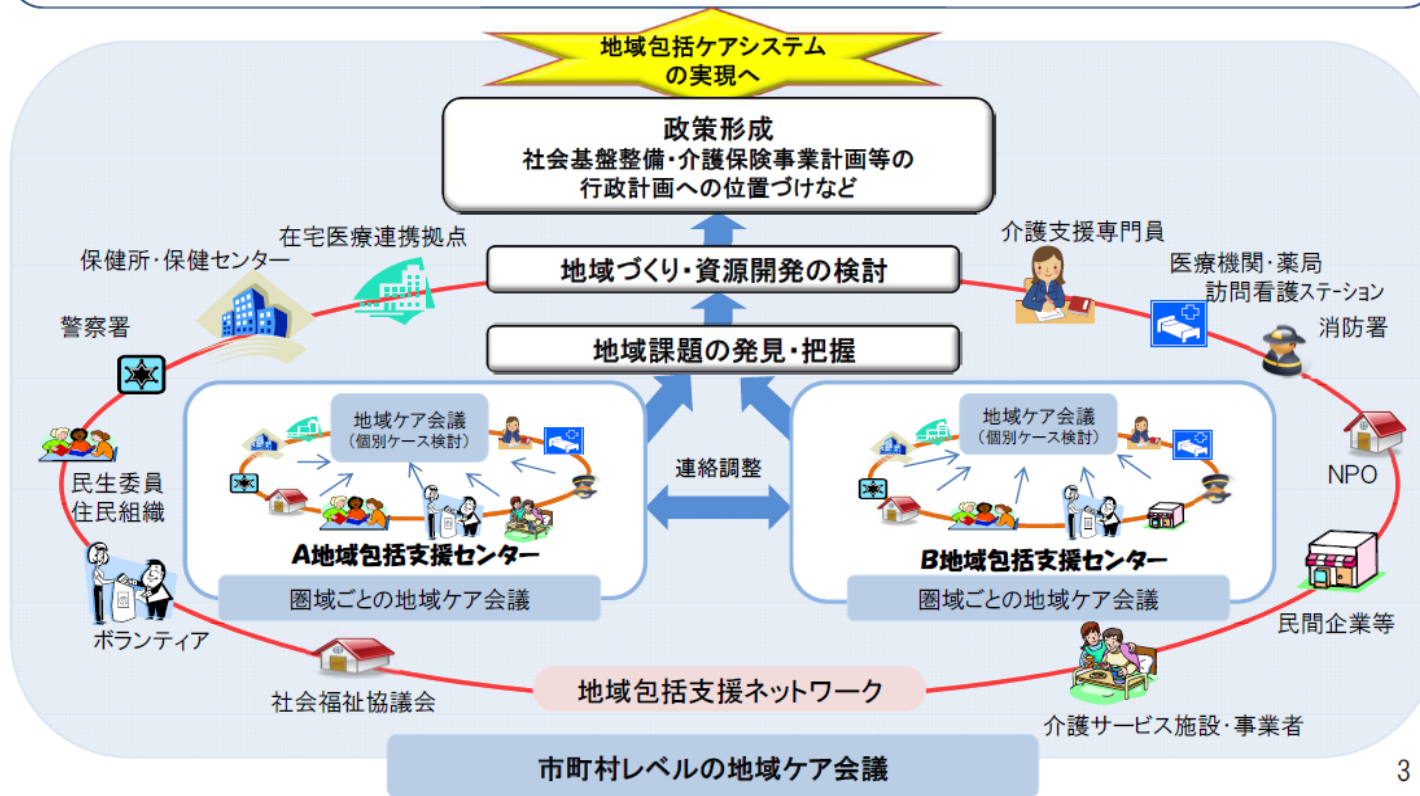
保険者・地域包括支援センターに 伝えたいこと

- 1度の会議で欲張らない: 対象者の自立支援も助言者・従事者の資質の向上も・地域課題も1度に解決することは容易ではない
- 会議を繰り返していくことで、自立支援の視点が培われる
- 地域課題は、1年を通して検証することもできるのでは？
- 自立支援型地域ケア会議と介護予防は一体的に関与できるように…

地域ケア会議について

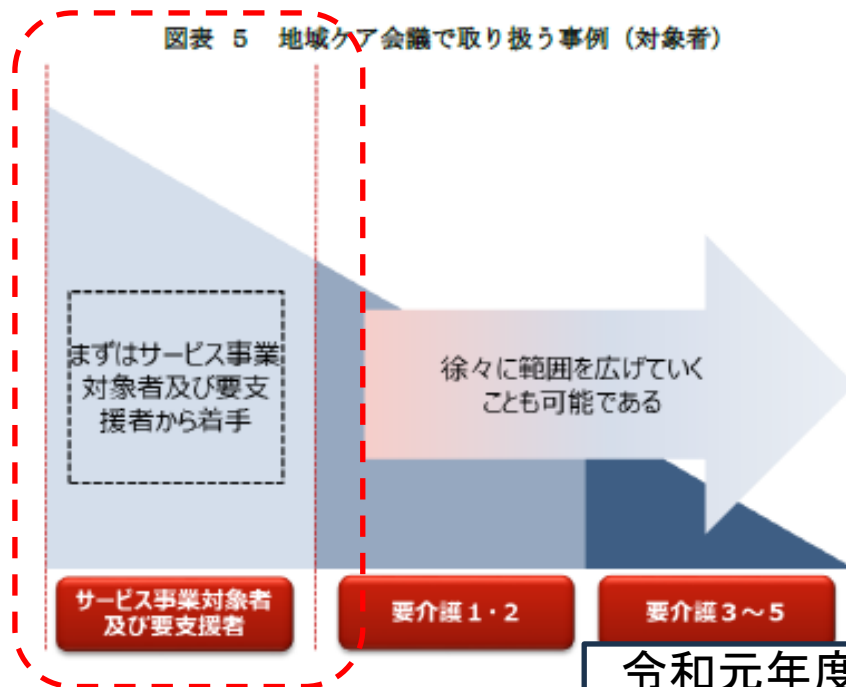
「地域ケア会議」を活用した個別課題解決から地域包括ケアシステム実現までのイメージ

- 地域包括支援センター(又は市町村)は、多職種協働による個別ケースのケアマネジメント支援のための実務者レベルの地域ケア会議を開催するとともに、必要に応じて、そこで蓄積された最適な手法や地域課題を関係者と共有するための地域ケア会議を開催する。
- 市町村は、地域包括支援センター等で把握された有効な支援方法を普遍化し、地域課題を解決していくために、代表者レベルの地域ケア会議を開催する。ここでは、需要に見合ったサービス資源の開発を行うとともに、保健・医療・福祉等の専門機関や住民組織・民間企業等によるネットワークを連結させて、地域包括ケアの社会基盤整備を行う。
- 市町村は、これらを社会資源として介護保険事業計画に位置づけ、PDCAサイクルによって地域包括ケアシステムの実現へとつなげる。



自立支援型地域ケア会議で取り扱う事例 (対象者)

- 自立支援型地域ケア会議は、自立支援・介護予防の観点から実施することから、主な対象者は「サービス事業者」「要支援者」想定



自立支援型地域ケア会議の意義

- 自立支援型地域ケア会議を活用し、多職種から専門的な助言を得る
 - 高齢者の生活行為の課題等の明確化
 - 介護予防に資するケアプラン作成、ケアプランに則したケア等の提供
- 自立支援型地域ケア会議の参加者が、事例に対する多職種の専門的な視点に基づく助言を通じて、自立に資するケアマネジメントの視点やサービス等の提供に関する知識・技術を習得すること(OJT・スキルアップ)

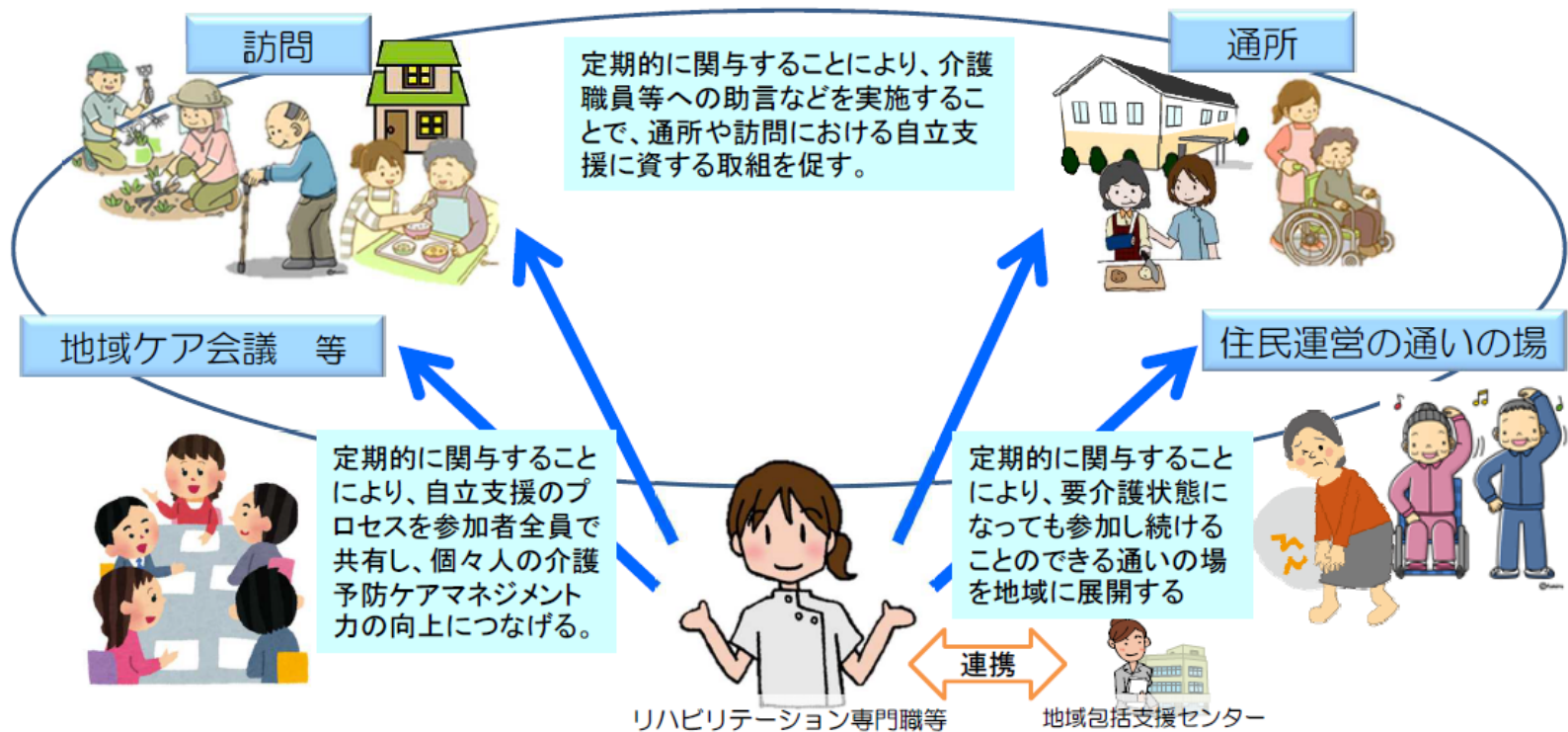
自立支援型地域ケア会議の効果

- 対象者（高齢者）のQOLの向上
- 幅広い連携体制の構築
- 地域ケア会議の参加者のスキルアップ・・・

自立支援型地域会議と 住民運営の通いの場との関係

地域リハビリテーション活動支援事業の概要

○ 地域における介護予防の取組を機能強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する。



リハビリテーション専門職等は、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携しながら総合的に支援する。

自立支援型地域会議と 住民運営の通いの場との関係

地域包括支援センターの機能強化と地域包括ケアシステム構築に向けた取組の概要

自立支援型地域ケア
会議で検討する



通いの場での些細な
変化を共有する



積極的に関与することにより、職員等への助言などを実施することで、通所や訪問における自立支援に資する取組を促す。

自立支援型地域ケア
会議で自立を促す



介護予防の取組を地域包括支援センターとの連携につなげる。

通いの場で居場所を
確保する



連携

リハビリテーション専門職等

地域包括支援センター

リハビリテーション専門職等は、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等の介護予防の取組を地域包括支援センターと連携しながら総合的に支援する。